

糖尿病治療の最前線

2型糖尿病の人は がん発症のリスクが高い

定期健診を怠り、胃がんの発見が遅れたRさんのケース



担当医 久保 明先生

医学博士 糖尿病内分泌専門医
医療法人財団百葉の会 銀座医
院 院長補佐・抗加齢センター長

患者氏名

R・Y様

年齢

77歳

性別

男性

現病歴

2型糖尿病 胃がん

糖 尿病歴の長いRさんですが、ヘモグロビンA1cは7%前後で推移しているため、長らく飲み薬だけで血糖値をコントロールされておられます。

8年くらい前でしょうか、体に倦怠感^{けんたい}を訴えられたので検査すると、男性ホルモンの値が低くなる、いわゆる「男性の更年期」であることがわかりました。そこで、男性ホルモンを定期的に注射したところ、すっかりだるさが取れ、以前にも増して元気になられたのです。ご本人も大喜びでした。

あまりに体調が良くなったため、気が大きくなったのでしょうか。Rさんはそれまできちんと受けていた定期健診を怠るようになりました。今思えば、これが大きな落とし穴だったのかもしれない。血糖値もさほど上がらず、ずっと体調の良かったRさんですが、昨年頃から「息切れしやすくなった」とおっしゃるようになりました。タバコもおやめになっっているのにおかしいと思い検査を

すると、貧血の症状がありました。貧血があると、動悸^{どうき}や息切れを感じやすくなるのです。

その数カ月後、ようやく精密検査を受けたRさんに、胃がんが見つかりました。貧血が起きていたのは、胃がんによる出血のせいだったのです。従来から糖尿病とがんの関連は注目されており、数年前の学会発表で、2型糖尿病の患者はがんの発症リスクが高いとの報告もなされていました。「元氣だから大丈夫」と油断せずに、きちんと定期健診を受けておられれば…と悔やまれてなりませんでした。

Rさんは少し前にがんの摘出手術をなさいました。幸いなことにさほど進行していなかったため、今後は順調に快復していけるものと思います。

糖尿病があると、さまざまな病気のリスクが高くなります。どんなに体調が良くても、定期健診だけは欠かさず行うようにしていただきたいものです。